



倉田 博之 議員

氷雪の山が 玄関前に…!!

福祉除雪について

市の「高齢者台帳」には、玄関前に除雪の氷雪を積まないでほしい「除雪注意世帯」の調査項目がある。

調査結果は除雪弱者である注意世帯の対応に生かされているのか。業者には情報伝達しているが、現実には個別対応は無理。

当制度では限界で、他の方策が必要だ。個人・団体等によるサポート組織で福祉除雪を行う自治体がある。

市にも類似制度はあるが、周知や内容検討は必要。地域住民の支え合いが益々重要。

街区基準点について

国交省が、国土データの整備などを目的に

全国の都市部に街区基準点を設置し、自治体に維持管理を移管した。

調査項目は工事や除雪で亡失・減少している。高山の現状は。

204か所中28点が亡失。復元はしない。それによる行政的課題はないのか。恒久性保持対策は必要だ。

別の街区基準点を利用。市の判断で、復元はしない。

計測点が遠いと費用も手間もかかる。地籍調査やGIS整備にも影響する。今後も減り続けて問題ないのか。

国が所有者。報告はしている。

「高山市街区基準点管理保全要綱」では、破損時の復元を市民には義務付けている。市の作業が原因なら市の

責任で復元すべきだ。

市に復元義務はない。

市民はダメで、市役所なら良いのか。

工事者などにも強要はできないだろう。

高山出身の特定失踪者と家族への対応

間拉致被害疑惑が濃厚な2名の高山出身者と市民である家族に対する市の支援は。

答 帰国後を想定した支援の研究が必要だ。

間 市民への発信や連携は。

答 関係機関と連携し、パネル展示や人権講演会などを開催。

間 学校の取り組みは。

答 社会科学授業などで学習。文科省選定アニメ「めぐみ」も教材として活用。



拉致問題解決への意思表示
ブルーリボンバッジ



車戸 明良 議員

郷土教育の推進!! 土曜授業の方向性は!

郷土教育（ふるさと教育）の推進について

間 目指す方向と新年度の取り組みは。

答 「ふるさと高山」を心にとめ、夢をもち、ふるさとの美しさを語ることで市民の育成につながる。新年度はすべての教育活動が郷土教育を意識した取り組みになるよう、カリキュラムの作成に着手し、試行する。

間 故郷を知り理解し、先人に感謝の念を抱き、愛着を持てる子どもの育成が、やさしさ、たくましく生きる力の基になると思う。郷土学習を進める課題は。

答 ①時間数の確保②教師の郷土認識の向上③家庭・地域・学校の協働があると考えられる。

土曜授業を取り入れる考えは。

答 本年度当初から協議している。郷土教育を本格的に進めるには、現状の時間数では難しい。土曜授業を行う必要があるのでないかと考えている。

市の米政策と販売戦略について

間 減反政策の廃止にもなう課題と今後の展望は。

答 5年後には米の栽培生産に制限がなくなり米価の低迷が予想される。この地域ではコストダウンは難しく高付加価値化を図り「売れる米づくり」の取り組みを進めなければならぬ。

間 おいしい米の海外戦略・販売方法は。

答 フランスなど海外からもおいしい米の問い合わせがあり積極的に推進する。昨年おいしいお米プロジェクトを結成した。5年後に高山でお米の国際大会が開催されるので、国内販売も推進したい。

町家（伝統構法木造建築物）の耐震化について

間 高山の町家独自の耐震性の検証と取り組みは。

答 立命館大学や金沢工業大学など研究者が現地調査や構造実験を行い、構造特性の検証をした。それをふまえて耐震化マニュアルを作成した。これを活用し耐震化を進めたい。

間 耐震化が進めば、京都で行っている町家の体験宿泊など新たなビジネスが展開できる。歴史的建築物の国家戦略特区制度の活用は。

答 当市における当該特区制度の活用について検討したい。